

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0770401453
法人名	医療法人 翔洋会
事業所名	グループホーム 泉なごみの家
所在地	福島県いわき市泉町滝尻字六枚内49番地3 (電話) 0246-75-2881
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
所在地	福島市渡利字七社宮111番地
訪問調査日	平成19年10月26日
評価確定日	平成19年11月30日

【情報提供票より】(2007年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年7月23日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	18 人
常勤14人, 非常勤 人, 常勤換算 14 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1		要介護2 8 名	
要介護3	6 名	要介護4 4 名	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 86.4 歳	最低 64 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 翔洋会 盤城中央病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

以前は宿舎だった30年前に建てられた建物を改装しグループホームとして利用している。構造上、使いにくい部分もあったが利用者を一番理解している現場の職員と話し合い、工夫しながらよい環境を作り上げている。利用者間のトラブルがないよう職員が間に入り、楽しい雰囲気を作りだしている。さらに、管理者を中心に何かあったときは原因を探り一人ひとりに合った柔軟な対応を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 外部4) 前は、脱衣室の手すりや職員の声がけなどの課題があったが、現場の職員と話し合い改善されていた。職員の声掛けの課題については、管理者がその時の状態を把握し改善していた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4) 自己評価結果を基に職員全員で原因を探りどのように改善すればよいか話し合っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5) 2ヶ月1回定期的に会議を開催しており、そのときに出されて情報を利用し地域の行事などに参加している。行事に参加したときは、地域の方が優先的に場所を提供していただくなど協力を得ている。運営推進会議では意見や情報が活発に出されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8) 意見箱を設置し、家族や面会の方に対し意見などを求めるよう努めている。面会時にもできるだけ声をかけ意見を引き出すよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3) 日常的に散歩に出かけたり、運営推進会議より得た情報を基に地域の行事に参加している。地域の行事に参加したときは、地域の方々が見やすい場所への誘導を行うなど協力をいただいている。また、保育園児の訪問があり、地域のこども達と交流が行われている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は職員全員で考え、前向きにそして上を目指したものを作ったものであり、生活の継続、認知症の緩和、地域との交流を目指した理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員に理念を記載した携帯カードを配り、いつでも確認できるようにしている。さらに、朝のミーティング時に必ず復唱している。施設内には見やすい場所に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通じ、地域の代表者から気軽に地域の情報が得られるまでの関係を作っている。得た情報を基に地域の祭りや催しに参加している。また、散歩中にお互いに声を掛け合い日々の交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価結果を基に職員全員で原因を探り、どのように改善すればよいか話し合っている。前回の評価についての改善はされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、地域の情報や意見が出されている。サービスの向上に生かすために充実した会議となっている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「なごみだより」を3ヶ月に1回発行し、利用者の生活の様子などを家族へ知らせている。さらに、面会時に声をかけ近況を報告している。緊急時や突発的な出来事は必ず電話で報告し状況を説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時に声をかけ機会を設けているが、今のところ意見や苦情は聞かれない。	○	家族会の設置など、家族等全員から意見を引き出せる場を設けてはどうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は過去1年間、1階と2階の担当職員の一人だけ行っているが、利用者の影響を考え、移動は原則として行っていない。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の開催場所が近い場合は、できるだけ多くの職員に声をかけ、参加している。遠い場合は、少人数でも参加できるようにしている。参加できなかった職員に対しては研修報告会という場を設け、勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年の8月よりグループホームトモハウスと意見交換や情報交換を行っている。また、福島県グループホーム連絡協議会に加盟し、管理者も常に他事業所との情報交換や勉強会の企画などに取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は買い物、散歩、病院付き添いなどを一緒に行うことで共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	雨が降っていても希望があれば買い物へ行くなど随時利用者の希望や意向に対応している。利用者の視点に合わせ、言葉や態度などで観察を行い、思いや意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員に対し、利用者に接していたときに気づいたことや新たな発見をしたときにメモを取り意見箱に入れるようにしている。それを利用し、介護計画の見直しが必要か検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が利用者に対して気づいた事などの意見や介護計画に沿った経過の記録があるため、介護計画の見直しの必要性があるかどうか把握できるようになっており、必要があればすぐに行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援 (小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院なので主にそちらで診察を受け、緊急時の対応も行われている。その際、施設での経過や状況を、わかりやすく書面にし家族へ渡している。入居前からのかかりつけ医に受診志望がある場合は、家族の協力があれば受診可能となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族を含め、同法人の施設や病院の管理者等で相談し、重度化した場合や終末期にどこで生活するのが利用者にとってよいのか検討し、対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者間でのトラブルを最小限に抑えるために、何気なく職員が間に入り対応している。個人の居室に大きな窓があるが、利用者の好みに合わせ部屋の中が見えないようにしている。個人情報の取り扱い等については、勉強会などで職員に伝えている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望があれば天候に関係なく買い物に行ったり畑仕事を一緒に行っている。しかし、どうしても体調に支障をきたす恐れがある場合は、理由を伝え納得してもらうようにしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房が離れているため、限られた利用者しか調理の準備は行えないが、片付けは何気なく声をかけ一緒に行っている。食事は職員も会話を楽しみながら一緒に行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日に2回行ったり、夜間行ったり、一人ひとりの希望にあわせ行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている (認知症対応型共同生活介護)	利用者一人ひとりが決めた時間に、洗濯・畑仕事・裁縫・レクリエーションなどを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している (認知症対応型共同生活介護)	「週に1回は外の空気に触れましょう。」という考えで、庭や近所に出かけている。その他、施設の車を利用し食事に出かけたり、季節感を肌で感じるができる場所に出かけている。外出を拒否している利用者に対しても誘いの声掛けは必ず行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上死角が多いが、鍵はかけず、常に職員は利用者の確認を行っている。仮に外へ出て行ったとしても気づかれないよう後をついて行き、安全に見守るよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	3ヶ月に1回担当者を決め地域の消防団の協力を得て、避難訓練を行っている。消防団より利用者の運搬方法や避難経路などの助言をもらっている。さらに、グループホームの平面図を消防団に提供している。	○	日中の避難訓練は定期的に行われているが、建物の構造が2階建てということもあるので、年に1回は夜間を想定した避難訓練などを行ってほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックが毎日行われ、体調の把握が一目で把握できるよう記載されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	築30年の建物をリフォームして利用している。現場の職員の意見を取り入れるほか、利用者の行動を把握し、使いやすく安全な空間を作っている。どうしても取り外せない廊下の柱に保護材を巻いたり、長い廊下の途中にソファを置くなど工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで利用していた家具や小物を置いたりして、本人の好みに合わせた居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙1）を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名	泉なごみの家
記入担当者名	高橋 幸子

評価結果に対する事業所の意見
特に無し

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。